

栄八通信

ハートコミュニケーション

第 10 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
発行者 宮本栄八
武雄町野間 TEL・FAX23-0750
発行部数 11,200部

市民の大半が十分に理解していない鉄道高架区画整理事業を考える紙上1人デベート大会 審判は税金払うあなたに!

高架区画事業の今

最近、都市計画課が、以前の計画二五・四区画に於いて、今度の区画整理予定地区九区画並びに県が高架用地として直接買収する小楠・甘久と竹下・下西山に関する地区で一回やっと説明会を終了。

特に、店舗や住居の密集する松原区や川端地区では数回の説明会が開催されている。現在、その地区の人が、どう考えているか「意向調査」を集計中という。私の知る範囲の反応は、川端地区は新聞でもご存知のように、将来像も示さず、生活権や職場環境の激変を一、二ヶ月で決定されることに對しての不満や、ぼんぼり設置や路面整備などで観光情緒も来訪者に誇れる状況に作り上げたのに、本当にこの事業がよりよい街づくりにつながるのか明確でないことに對して納得できないようだ。

事業費の総括表

事業名	総事業費	市の負担
鉄道高架	101億4.8百万円	10億1.5百万円
区画整理	72億0.0百万円	34億6.3百万円
関連事業	8億7.2百万円	2億9.3百万円
合計	182億2.0百万円	(起債償還・物価上昇3%) 約65億円

事業の必要性は?

私自身、議員になった二年半前思っていたことは、高架区画事業をやるならやる、やらなければならぬとハッキリ決めないと北部で再開事業をやるか、郊外で共同店舗などを作るか、武雄の商業者は動きがとれず、悪循環に入っ

ていると感じた。それを打開するには高架区画事業の内容を早急に煮詰めて、最終的な決断を下し、すみやかに行動に移すべきと思ひ努力したつもりである。

しかし、北部商業者が、高架事業に期待していたものは、交通の便を良くして、広域商業を専門店を集積することで、再開発を図るものだったと思う。

しかし、高級住宅を扱うジュニア・デパートを目指す。スーパーイーストを文教地区に導入した時点で、北部の目指す広域商業の為の高架事業は本来の目的を無くしたのだと私は思っている。現に数年前までは、松原の商店主の方が、都市計画課に高架事業の早期着手を求めて陳情されていたが、最近、そんな光景を見ることがないのは、偶然の符合ではないと思う。

最近、市が高架の効果として温泉を生じた観光の為とか、風通しを良くするとか抽象的な説明をし、市長などは、「移転補償費が町に落ちるから良いではないか。」と云うような本末転倒した発言まで飛び出すのは、高架区画整理事業に對する必要性や将来展望が整理されていらないからと思う。だから、市民から情報不足を何度も指摘されても、都市計画課が技術的な事を地元で説明するだけで、総務部長が市の財政を、経済部長が、イヅミや東部開発など、当然事業決定に必要な総合的な説明を今まで市民に對し一回もなされていなく、また、ここ数年必要だからぜひ

事業をやってくれと言おう望も聞いたことがないので、市民全体のニーズは少ないと思える。ただ最近、賛成と言う人も少し地権者の中にはいるようだ。私が調べた所では家屋移転補償費に継ぎたして「建替えないとんでくつたい。」とか、「土地も家もその際買ってもろーて田舎にひっこもつたがまし。」と悟りきった様な賛成派も増えている。

本来、区画整理は、土地の形を整え、道路や公園に土地を提供した分、ビル等を建てて高度土地利用をするものであると思う。

現在、松原の商店街では、先に記した様な後向きな賛成でなく、将来の松原地区を考えた議論がなされていると聞くので、その内容や結論に大変注目している。そこに、高架区画整理事業の必要性があるかどうか見きわめたい。

財政問題はどうか

一〇〇%不可能ではないが相当の覚悟が必要だ

前回の栄八通信に示した「必要な市の持ち出し額」の表は、実は市が作成した高架の資料の最後のページにあったもので、当初、議員への資料には付いていなかった。その後の住民説明会の時は、取りはぐしてあったので、あえて載せた。それによれば、事業実施を決定し本格的に工事が始まる三年目から七年間ぐらゐは、市年間の純投資的経費とされる6億円をほぼ全額投入しなければならぬ。さらにその後十年間は、(学校建設一校分に当る)一億五千万円を、借入れ金返済として払い続けなければならない。ただ、年の支出が六億円以上になる年はないので100%不可能かと言え、そうで無いとも言える。ただ、現在やっている純投資的予算は、相当(ほとんど)

純投資的予算の支出状況

そこで思うことは、その純投資的予算が現在どういう事業実施に使われていたのかを知りたくなる。そこで調査したわけだが、私が新人で勉強がたりなかつたかもしれないが、私の想像では、一億とか二億とかポンと何かに投資する事業に使っているかと思っていたが、財政課の作成していた事業一覧を見ておどろいた。純投資財源といういかにも自由に使える様な名目とはうらはらに、その表に列記されている事業はなんと約四十五事業もの源資として苦勞して細かく分散し、多くの事業をやっている状況で、現在でも財政に余裕はない様子だ。全部を列記して解説するのは紙面の都合上無理なので要点を整理して紹介したいと思う。たとえば

通常の投資事業の削減も

前日も記述したが、年間予算の約一割の十二億円が投資的予算でその半分が純投資的予算(単発的な特別分)と通常の投資予算(最低必要な維持分)が各々六億円ある。前述したように、純投資分の六億円が極端に圧迫された場合、それを全面カットする前に、通常の投資事業の見直しや、削減も迫られることになるかと私は想像する。そこで、その通常の投資事業の内容を図Bに系統別にまとめた。純投資の図A、農村部の道路と合併浄化槽補助以外は項目が似ているが、維持管理の費用が中心なので削減は苦勞すると思う。

図A H8年度純投資予算事業実態

事業名	件数
教育関係	2
公共施設	2
農林関係	1
企画観光	1
その他	

図B 通常の投資支出額一覧

	H7	H8
一般道路	264	345
公共施設営善	52	85
河川改修	44	64
学校営善	63	70
農業補助	39	38
合併浄化補助	32	34
その他	5	8
県単費負担金	87	135

財政問題を整理する

これからの行政運営で、多額の
出費が、予想されるのは①高齢者
福祉②職員の退職金③公共下水道
④市立保育所六園の改築等である。
私の考えでは、高齢者福祉につ
いては、職員退職者に対し、1/3ぐ
らいの補充でスリム化しその分を
充てる必要があると思う。

職員の退職金については、団塊
の世代が退職される今後は年に三
〜四億円が必要だが、現在、市で
は、予算の繰越し金の半分を退職
金の基金として積立しているのでこ
れは当面は心配ないと聞く。

公共下水道については、予算は
見当らない。鹿島市は、学校改
築を終了し、その後下水道計画
を入れ、約十年間工事し、その間
約四億円を毎年繰り出して昨年供
用開始に漕ぎつけている。

市長が、『武雄市は、人並の借
金をしていない。』と言うが、反
対に言えば人並の事業をしてない
からだ。

結局のところ、武雄市が鉄道高
架と区画整理に取り組んだ場合、
農業予算、企画、公共施設改築、
道路予算を大幅カットし、学校改
築を二年に一校とかして先送りし
て、下水道事業は、高架事業のお
おかた終了した十年後に着手して、
二十年後に供用開始、農業集落排
水整備は予想すらできない。

年度別退職(予定)者数・退職手当数

退職年度	退職行政職	退職技労職	退職者合計	退職手当額(概算)(単位:千円)
10	3	2	5	130,552
11	9	1	10	308,737
12	9	4	13	364,432
13	12	1	13	415,483
14	8		8	258,892
15	8	6	14	388,547
16	6	3	9	261,880
17	7	2	9	290,730
18	10	2	12	377,446
19	14	4	18	560,577
20	16	3	19	607,550
21	17	3	20	662,740
22	16	2	18	597,834

行政視察から学ぶ

私は高架の特別委員会に所属し
ていて、三年間に六ヶ所を視察。
武雄市の参考になる様に、小都
市を中心に視察したわけだが、全
体的に言えることは、武雄市ぐら
いの人口三万人の市では例がなく
最低八万以上の市が実施していた。

また、鉄道高架の線路の切り替
えも、現在のJR用地や貨物ヤ
ード跡地を利用して補償や用地
問題も比較的簡単な所が大多数で
あり、武雄のように町のご真中に
何軒もの家屋が密集してある所を
動かすような事例はなかった。

ただ、どの市も取り組んだら命
がけのような職員の状況であり、
舞鶴市では、換地計画の段階で核
スパーの誘致と地元業者店舗用
地確保などの街づくりビジョンを
示し、区画整理が十年かかったた
め、進出中止を考えた核店の平和
堂を、事業終了まで市が交渉を重
ねて繋ぎ止めた例もあった。

また、春日井市では、武雄と同
じように、区画整理しても地価
上昇が見こめない、減価補償地区
で立地換地とあって、市が中心と
なって高層ビルを建て、その床の
権利を土地の代りにやる方法は注
目すべき事例だった。しかし、自
分の土地の代りとして集まった店
の業種に統一性がなく魅力に欠け
たことや、借手のつかない階には
市が借りて役所の一部として利用
するなど苦勞の多いことも学んだ。

また、視察先の多くは、市施行、
住民がやる組合施行など高架と関
係なく、区画整理でメリットのあ
る地区を随時進めてあった。
大半は駅前に空地など土地に余
裕がある所がほとんどだった。
最近、視察した栃木市は、武雄
と同様に建設省から「高架と区画
をセットで実施」とされたが、分
離した方が実現可能として、国と
交渉し、分離した例もあった。

都市計画審議会の決定は

前日も記したように、高架区画
事業の決定権は、市長が「市民の
声は議員が代弁」と言ったものの、
議会には予算となって上って来て
初めて賛否が示せる。実質的には
市の都市計画審議会の決定に、市
民の運命も委ねるしかない。

私が前回の通信で指摘したせい
か、審議委員が今度の十月十三日
の任期満了を機に、一部変更され
た。簡単に言えば、市の職員を一
名減し、市民代表一名を加える。
市議代表の中の議長が退いて、建
設委員と交替。

新審議会委員は下記の市の職員
(古川総務部長、庭木経済部長、
末次建設部長)の三名、学識者
(綿島商工会議所専務、迎市農協
長、中村弁護士、角田武雄土木事
務所長、瀨上区長会長)の五名
市議(大坪・重松・富永・早田)
の四名である。条例では、過半数
をもって決するようになっていて
が、会の性格が土地利用や建物制
限を中心としているので、財政や
他の事業との優先順位等はあまり
検討されないの、やもすれば、
事務局案の追認になる可能性もあ
る。今回は、特に重大な決定であ
るので、委員の賛否及び意見を採
りて決定すべきと思う。

追伸・十月中に予定されていた
審議会は十月二十八日と、十一月四
日に開催模様。

市内小中学校改築状況

学校名	校舎	体育館	プール	給食室
武雄小	○	×	天× 小×	改
御船小	○	○	天× 小○	改
朝日小	×	□	天× 小○	
橋小	予H10・H11	×	天× 小×	
若木小	○	○	天× 小×	
武内小	予H10	×	天× 小×	
西川登小	×	○	天× 小×	
東川登小	×	○	天× 小×	
武中	○改	□	天× 小×	×
北中	×	×	天× 小×	
川登中	予H10・H11	○改	天× 小×	

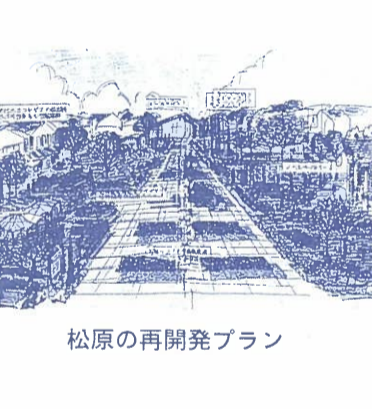
私の現在の考え

次の栄八通信発行時には、都市
計画審議会での結論は出ていると
思うが、未だに高架区画事業の必
要性やその後のプランが明確でな
いこと、人口三万人の都市力の問
題や事業に伴う、他事業の削減プ
ランが示されたいないこと。

現在、川端地区など事業に反対
があり、工事地区の家屋が密集し
ているため、事業期間が極端に長
引く可能性があり、市職員が何人
も土地交渉にとられる事も考えら
れる。また、イズミ、東部開発が
高架事業中に完成し、その後とな
れば、状況が一変してしまふ。

高架区画事業を行えば、街は
良くなると思うものの、私の想像
では現在の南部より交通や街は近
代化することはないと思うし、た
とえ南部ぐらいいなくなったとして
南部を北部まで広げただけで、武
雄の街の魅力拡大にならないと思
う。さらに、松原で以前策定され
た個性的な商店街作りプランも高
架にたよらずできるものであり、私
は、投資的予算を、直接的に観光
なら、温泉新館改築や桜山周辺整
備、旅館街の駐車場確保など商業
で言えば、街づくり会社等に出資
するなどがより効果があると思う。

ただ、現在の投資的予算よりも
高架区画の方が、価値があると言
うなら、考える余地はある。最近賛成
反対の両方の市民から聞くことは、
「市の幹部の事業に対する熱意が
感じない。」との声を心配する。



松原の再開発プラン

都市計画税のうがった見方

結論「全市民的な事業が必要」
今議会の一般質問で、「通常は、
高架区画や下水道事業の受益区域
は、一般的に都市計画税を、固定
資産税とは別に徴収する自治体か
多いが、武雄市の場合はどうする
のか？」の問いに、市長は現在で
も、固定資産税率が高いので都市
計画税は導入しないとの答え。

私の本心は、都市計画税を導入
して、固定資産税を下げると言わ
せなかったが不発。と言うのも武
雄市の固定資産税率が県内で一番
高い一・五五%である問題を表に
出したからだった。全国三二三
三自治体のうち、二九四四は、標
準税率の一・四であるのに武雄市
は何れ高いかを、調べてみた。

昭和三六〜三八年まで、固定資産
税一・四と都市計画税〇・二の計
一・六%を課税していた。
昭和三九〜現在まで、都市計画税
を廃止し、固定資産税が一・五五
%に増えたという。

普通に考えれば、都市計画税の
〇・二%を廃止したならば、後は
固定資産税の一・四%のみで良い
はずである。見方によっては、当
初、都市計画税を取っていたが、
ほぼ市全域から取り、しかも都市
計画事業にあたいするものがなかつ
たので、都市計画税の名目で取れ
ないので〇・〇五%削減したかっ
たので、固定資産税におっかぶせ
たとも取れる。そう考えると標準
税率を越えた〇・一五%は、かく
れ都市計画税ともとれる。

ならば、市周辺の武内・若木・
川登の人も、都市計画税を払って
いる状態なので、周辺部の基盤整
備も市街地と平等であるべきだ。
私の考えは、恩恵を受ける地区
とそうでない地区をはっきり区分
して、行政サービスと市民負担を
明確にして行くことが、地方分権
の時代には必要だと思う。

部長制の成否

部長の「実施方針立案書」
課長の「室員業務指示書」が
出て真の部制の導入だ！
市長から、権限を一部移譲され
た、部長の方針に従って、部単位
の責任の元に、総合的に業務が展
開されることは歓迎すべきだ。

しかし、私はこの部長制は諸刃
の剣であると思っている。
一部市民からは、リストラを叫
びながら、また市民に受益者負担
を強いながら、市の管理職を増し
屋上屋を重ね、人件費の増大では
ないかとの声も聞く。

また、最近部長制を逆に廃止し
た、広島県の竹原市では「市民の
行政懇話会」で、「部長は中間管
理職的で十分に機能していない。』
『助役で十分代行できる。』『財政
がきびしい。』との理由で廃止。
部制はその運用で成否が決まる。

その為には部長の存在意義を明
確にしていく必要がある。私が部
長に一番に求めるのは、条例施行
規則の6条部長職務の(3)市の基本
方針に基づき所管業務の目標及び
実施方針等を立案設定して計画的
に執行すること。とあり、これを
受けて課長以下が「実施計画」を
立て、部下に指示するわけで、部
長の命は、実施方針立案書にある。

一方、部制のもう一方の目玉は、
室制度で、今度職員の1/3が室員と
なるが、これは係と違い、企画や
調査を主業務としている。その為
課長が、企画の内容や範囲、期限
を十分に指示しなければ、行革ど
ころか、膨大な人件費の無駄づか
いとなるので、室員業務指示書が
必要と思う。
私の一般質問では、「まだ、調査
中」との答だったが、早急に作成
して市民にも明示してほしい。

9月定例議会 9/4 ~ 9/24

私の一般質問

① 老人保健施設の早期設置への市の対応

市がもっと積極的に動くべきだ！

六月の議会で、市内の開業医の方が老健施設設置の意向であることは、市から確認がとれた。

そこで、鹿島市での対応の例を出して、地元説明会やふるさと融資（借入れ金の利子補給）を中心として市がサポートしていることをあげ、武雄市も協力支援すべきと質問したが、市長は「できる限りの協力をする」と明言された。

その後、老人福祉担当者と進捗状況や今後の支援方針について意見交換したが、開業医の方からその後連絡がないから、なにも動いていないなど、待の姿勢であった。

この老健については、以前市の医療審議会では、市立でもせねばならないとの答申もでるぐらいに必要性があるわけで、もっと積極的に動くべきではないか？

【回答主旨】

以前は、対応が遅かったが、状況が整った（医師会の了解か？）ので今後は積極的に動く。

■解説

現在、老健設置の申請が県の方に行っていて、認可を待っている状態という。

② シルバー人材センター法人化への市の協力

市からの発注の約束
具体的に実施すべき！

昨年の九月議会のおり、シルバー人材センターは、法人化すれば国からの支援も受けられ、運営基盤

④ 観光ビジョン策定はどうなった？

本当にやる気があるか疑わざるをえない

観光ビジョン策定は、私が議員になった日七年六月議会の初質問で、市長は策定を明言された。

しかし、日七年度は、策定事業補助メニューを探すと理由で動かず、また日八年度の当初予算に策定費が計上されていなかったの追求すると、「今年度は、焔博で人手がたりない……」との答えだった。そこで、焔博が終了した秋口に再度質問したところ、「コン

③ 保育所の幼児一時保育実施は？

自治体の福祉サービスに
先取り感覚が必要だ！

これは、家庭で保育されている世帯で、冠婚葬祭や会合出席や旅行等の都合で、幼児の面倒を見る人が短期的にいない時、保育所であらかじめ利用できる事業である。

六月の議会で山北議員から質問に対し、検討するとの答えだった。

この事業、以前は、十人以上の利用幼児の平均利用が実施条件だったが、県が、「子育てリフレッシュ事業」として要件を三人以上と緩和した。また、予算額も小額であり、福祉サービスとしては初歩的な事業で、やる気があればすぐできる事業と思うが、その後検討の結果はどうなったか？

【回答主旨】

現在も、検討中である。

■解説

鹿島市では、すでに7月から、公立・私立保育所の計二ヶ園で実施されていて、利用も多いと聞く。武雄市も競輪場など短期雇用も多いため、ニーズはあるはず！

⑤ 松原交差点の信号機の設置を

武雄市民の方から新聞の読者の声の欄に、この交差点の信号機の設置の投稿があった。

その内容は私が以前から考えていたことと同じでした。松原交差点に信号機が設置できないのは鉄道路線から距離が近いと思っただけで、同様の条件である、交通事故No.1の小楠交差点に信号機が設置され、以来ほとんど事故があつてないという交通事故の責任は、第一に運転者にあるとして、多分に人災という行政施策に責任があると思う。そこで、早急に信号機を設置すべきではないか？

【回答主旨】

公安委員会は、設置の意向をもっている。信号機設置用地が確保されている。



渋滞の原因は踏切でなく交差点



堂島の信号と連動すれば可能では？

大楠公園と飛龍窯をふると林道で整備を！

伊万里からの国道に隣接した、大楠公園への寄り付きの良さを利用し、その観光客を武内の山中にある飛龍窯へ観光ルートとして、結び付け、相乗効果を上げる為の道路整備を望んでいることは、これまでの、何人も議員の質問や市民の声を聞いてもわかる。

現在までの議論を見ると、黒牟田地区から若木まで山の谷を下る乗用車一台がやっと通れる清正寺―黒牟田線という小さな、曲りくねった市道がある。その拡幅整備の要望に対し、市長は、清正寺の谷の景観保護の観点などから、清正寺線の車の離合場所の設置で対応の方向であるように理解している。

私も、市の今後の財政を考えると、清正寺線を、市の単独事業での拡幅整備は現実的に不可能で、また、離合場所も谷ぞいで、整備は困難ではないかと思う。



大楠の客を黒牟田へ

今市議会 論戦場の黙示録

課長はテレビに映らず

今回の部長制で目に見えて変わったのが、議会答弁が、課長から部長に変わって、課長が議場に来なくなってしまうことである。今回知ったのだが、議場に誰を招集するかは議会側が決める。私は行革の観点から少なくとも招集する意見をもらったので結果的には満足している。ただし、質問に関係する課長は、新しくテレビを引いた部屋で議会中継を聞いて対応。

今回答弁で部長が専門外も業務範囲になったため、以前のいきさつを聞く為、農林関係のことを、建設部長に聞くハブニング有り。

聞かないと言えない

今議会中、山内町や鹿島市の首長が、議員の一般質問を受けて、3選出馬などを明確にされた新聞報道があつて、武雄市でもだれか質問するのはと思つていたが、質問通告の一覧を見る所では、それらしき項目を上げている議員はいなかった。かえって私が急に聞かなくてもいいかと思つたのか、議長が、親切に「もし進退を聞く時は、話のついでの様な形で聞くのは良くないので、聞くならちゃんと聞くように」とアドバイスを受けたが、私は別に聞きたくはないと答えた。たいがい、進退を聞くのは、与党というか、支援議員が、市長の業績をたたえ、続投を促すのが普通だろう。そう考えれば、嵐の前の静けさなのか？

武雄市水道事業9次拡張の意外な展開 「5年間値上げ凍結」

水道事業の第9次拡張事業は、総額六八億円で、期間二〇年の事業で、日量二万二千tを給水する計画であるが、十三年には、西部広域水道の接続で、水道料金の五〇%値上げも想定されていた。

栄八通信を出した後に、急に執行部から、修正案が出された。その内容は、水道管網図などの電算化は、市全体の電算化と同時に良いということも削られた。

また、九月議会前には、再修正案が出され、議員からは、「似たような図面を何回も渡して、どいがか判らん。」と皮肉も出た。

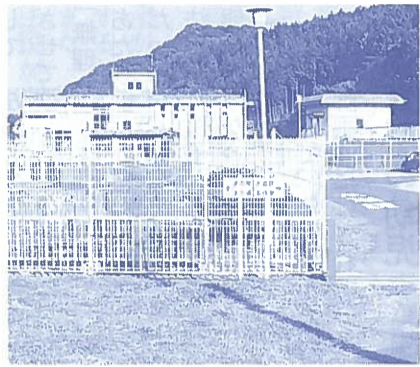
結局、二転三転して出た結論は、五年間を限定して、事業総額を二億三千万にし、実施する事業は、①広域水道を受水するタンク関連 ②若木武内の未普及地区への給水 ③石綿管(旧式水道管)の更新のみとして、多額を消費する濁り尾浄水場の立替えや、一般水道管更新などは見送られた。

そして、水道料金も、なんと、「五年間値上げしない。」と言うことで、びっくりしたわけだ。

ところで、値上げ凍結の財源は、①積立金の取りくずし。 ②水道高料金対策の繰出し金。 ①は、昨年、収支が厳しいとして水道料金が値上げされたが、実は残って積み立てていた分をくずす。 ②については、国で繰出し基準額が定められていて、たとえば、三億円が基準額なら、その八割の二

千四百万円は、国から交付税として補填されるしくみ。ただ、水道の為に来た交付税も、他の目的に使っても良いことになっているので、昨年度、武雄市は、基準額三億円の半分の一億五千万円を水道事業会計繰出ししている。今度この半額を全額繰り出す努力をして、値上げ五年間凍結分に充てる予定。

議員の中には、「市長は、あと一期するつもりじゃなからうか?」また、「単に事業の先送りだけで、水道管の悪かとのぼろぼろ出てくるとじゃなかか、浄水場もいずれ建替んといかん。」繰出しを多くして、他の事業が困らんか? など聞かすが、私の考えとしては、水道高料金対策の繰出し金はともと全額繰出すべきと思っただけで、西部広域水道の加盟者間の責任水量の見直し、多久市のダム計画地の地盤の不適による水不足などあり、へたな決定を今されるより、先送り得策と判断。



濁り尾浄水場の必要性も今後の問題

図書館は宇宙基地?

場所は武雄神社前の建設省跡で予算は土地取得に六億円と建物や設備、ソフトで、二十億円と言うことは知っているが、今

どんな内容がどう決められているのか、さっぱりつかめない。私がこう思うのだから、市民の方はなおいっそうではないかと

横尾・新多久市長と水問題と私

横尾君は、私より一才年下だが日本新党の時より、カンパやボランティア運動員として協力してきた。それは、私がJCに入会した当初、地域フォーラム作りで、武雄温泉別荘での会合で知っていた関係でもある、衆議院選の時、私は、市議としての仕事に支障のない範囲で協力したが、小城・牛津・白石・諸富・大町・江北など、おかげで歩かせてもらった。

政党的政策がねじれている昨今、国政より地方自治が能力が発揮できるのではと、市長選出馬を勧めた。六月中旬、お通夜の帰り、武雄小のグラウンドで偶然あった時、出馬を私に告げたので、待ってましたとばかりに、「当選したら、独自にダムを作る前に、武雄の水

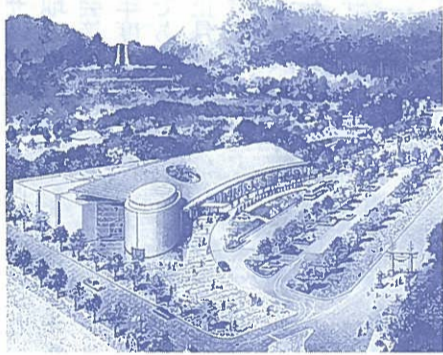
を広域利用する方法を心がけてくれるように」頼んだ。彼はすぐ手帳を開き「八千三百」と記入したので感觸は良いと思った。

その後、立合い演説会でも、武雄や塩田の用水の広域融通を言っていたので、良い状況だと思った。当選されて、議会初日に横尾市長に、栄八通信の水特集を頭に入れてもらおうべく、連絡なしで訪問したが、市長室にわざわざ水道課職員まで呼んで、私の話を聞いてもらって感謝している。今後の展開を期待したい。

一方数日後、多久市議会の一般質問を傍聴に行ったが、市長が答える前に、「質問ありがとうございます...」に感激。ただ、武雄の様には派手な応答でなく地味。

私自身、超豪華な図書館を望んでもいなかったし、現在の図書館では利用しにくいことや、文化財が展示できずに室に山積みになっていることを解決できれば良いと思っていたので、見守り姿勢でいた。

ところで、今議会の一般質問で、設計会社をプロポーザルというデザイン提案競争の入札で、佐藤設計に決ったと知り、図面を見ておどろいたが、宇宙基地のようなデザインで、市長が以前答弁していた「木の風合を生かした:」から想像もつかなかった。大坪議員も指摘されていたが、「中野住宅も和風にし、若木小も木を生かし、今回、し尿処理場まで倉造りに統一していながら、市の公共建物についての統一性がない。」の質問に市長は、「ルーブル美術館内にも近代的なガラスの建物がある。」とか、「また、このデザイン案は固まったものではない。」私は、その答弁を聞いて憤慨した。ルーブルのガラス建物は美術館のオブジェで本館でないこと。また、プロポーザル競争は、デザインで決めるものでそれが、本設計と関係が少なければ、その入札方法はいい。何だったのか? 聞く所によると、採用された会社を選んだ理由は、熱意が感じられたからとの話。熱意が感じられたからとの話でも聞いたが、このプロポーザル入札は、見方によっては、形を変えた随意契約(適当で良い)になる恐れもある。これを機会にプロポーザル入札のシステム作りを図る必要があると感じた。



やぶさめや黒門とは合わない気がする

郵政三事業の国営堅持の意見書に反対した理由

六月議会で同案に一人反対したことは記したが、その理由は、紙面の都合で今回にまわした。

①グローバルスタンダードの観点で、先進国で国営郵政は日本のみならず、国や地方行革の大原則は、民間でやれる事業は民間に移すべき。 ② ③ ④ ⑤ ⑥

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

① グローバルスタンダードの観点で、先進国で国営郵政は日本のみならず、国や地方行革の大原則は、民間でやれる事業は民間に移すべき。 ② ③ ④ ⑤ ⑥

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

イズミのその後の動向

予定地水田に、土がほぼ入れられ、緑色から灰色に変わって、いよいよイズミも建設にかかるようだ。市が用途地区を変更し、大店審で決った以上、商業的に問題は無いと思う。聞く所では、来年の五月連休前にオープンと言う。

ただ、ケチつける意味でなく本心に心配な点が二点出て来た。

まず、駐車場の件で、一千四百三十三台(地下三三三台)を確保して、十分に客に対応する約束だったが、現在、地下は作らず九百台分しか無い。職員やパート四百人以上の駐車場確保も明確でなく、(客の車が)文化施設駐車場を占拠する不安も出て来た。

次に、里道払い下げの件で、予定地の真中に、以外と大きな里道とあって、所有権は大蔵省で市や地区の証認があれば、払下げができる。そこが、イズミに払下げられていることを知った、もしイズミが撤退して、借地解除した跡

編集後記



3階建て 2階建て 里道確保で3階建て? 2階建てから

ど真中が、第三者に渡れば困るので、市などで確保すべきでないかの点である。

コッコ

鉄道高架事業など、多額の市費を消費する事業があるが、今までは、子供の世代の為に、建物と借金を残し、借金の方は、物価の上昇や経済成長で解決していたので、作ることのみ考えれば良かった。今後は、自分たちが払う二十年なり三十年間の税金の中で払えるものを子供たちに残そう。本当に必要なと思うなら、増税してやるぐらいの気持ちが必要だと思ふ。

今後のプランとしては、高架事業の市の財政計画の提示と、都市計画審議会の議論に、注目して、最終決断をしたい。